

令和5年3月31日



令和4年度 東京都立園芸高等学校 定時制課程 経営報告

東京都立園芸高等学校長  
並 川 直 人

## 1. 目指す学校 ・ 目指す生徒

明治41年に創設された本校は、常に我が国の農業教育の中心的役割を担ってきた。創立110周年の節目を経て114年目の時代を築き、来る120周年に向け名実ともに日本を代表する「農業の専門高校」を目指す。

# 校是「勤勉 勤労」

※ 校是とは、学校設立の根本精神をいう。初代校長、熊谷八十三先生が明治41年開校にあたり「勤勉 勤労」を生徒心得として定めた。

### 〈目指す生徒〉

**基盤学力と専門技能を身に付けた**

**人間性・社会性豊かで、学び続ける力をもった生徒**

**不透明な時代で活躍するために「タフでしなやかな生徒」の育成**

## 2. 中期的目標と方策（令和元年度から3年計画）

東京都教育施策大綱（平成29年1月）の精神を、「園芸高校定時制教育」に生かす。

### (1) 学校経営

「個人商店主義」の排除、一体的経営を行う。

（学校は組織で教える所。全体のベクトルを合わせて進める。）

- ① 「教職員全体の経営参画意識」と「学校全体での改善」
- ② 「部分最適」よりも「全体最適」の優先 常に「最適解」を意識して計画し行動する。
- ③ 積極的な「見える化」により「情報」を学校全体で共有する。
- ④ 学校行事終了後は、生徒の変容と成果検証をすぐに行い、具体的な改善事項を実施後2回目の企画調整会議で報告する。
- ⑤ 「東京で一番、定時制・全日制の仲のいい学校」、「定・全」間の見える化を推進  
⇒管理職への適時・適切な報告・連絡・相談を重視し、職員の「Team Engei」の一員としての意識が学校運営に生かされてきている。常に「最適解」を意識して職務に当たることは定着し前例主義の発想が減少し、実施後すぐの検証と改善の提案が定着した。

### (2) 学習指導（共通の基盤）

校是「勤勉 勤労」の体現と「力を付ける授業」

- ① 「言語活動の充実」 本校では、特に「**読解力**」を育成し、「**アウトプット（話す・書く・行動する）**」も重視する。生徒の思考場面を重視した「**考え抜く授業**」を実践する。  
・**（定義の理解など）教科書を読んで理解できる力・表現できる力**を育成する。

② 「東京都オリンピック・パラリンピック教育」

大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育を展開する。

③ 「アクティブプランto2020-総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）」

体力向上を目指し農業系高校に相応しい体力を育成する。

⇒学習指導では「アウトプット」を意識した取り組みが定着した。学習（インプット）したことを表現する、他者に伝える場面を増やし、今後も継続して生徒の言語活動を進めていく。

「考え抜く授業」の実践に向けては研修の機会を設定し教員の相互の研鑽が必要である。

オリンピック・パラリンピック教育を計画的に実施した。体力向上については、日ごろの保健体育の授業、農業実習等の場面で向上に努めた。体育の授業では感染症対策を徹底した上で、体力向上のための取り組みを行った。アンケートでは、90%の生徒が体力向上を実感したと答えている。

(3) 専門教育（多様な方向性、能力の最大化）

① 「資格取得」の奨励と「FFJ検定」や「アグリマイスター顕彰制度」の活用

② 「教員個々の指導力向上」「先進技術の習得」

⇒全日制の「先端技術活用実証研究指定校」の一部であるIoTセンサーを設置し、データを活用した農業学習の端緒についた。新教育課程での「農業と情報」の授業につなげる。

(4) 生活指導（規範意識の醸成と生徒に寄り添う指導の充実）

① 「挨拶ファースト運動」と生徒自身でできる「時間管理」の方法を作る。

② 「3つのリスペクト運動」で 互いに敬意を払い、尊敬されるよう自身を律する。  
いじめ総合対策に基づいた「体罰といじめ」のない、許さない学校環境を作る。  
さらに、自殺総合対策大綱に基づいた「自殺の未然防止」につなげる。

③ 「厳格」と「受容」（ゼロトレランス）と（カウンセリングマインド）

(5) キャリア教育・進路指導（職業社会で自立し、成長できる力）

① 「学校から社会・職業へ移行した後まで見通した指導」

② 「学校外組織と連携」（産業界、大学、ハローワーク、サポートステーション等）。

(6) 母校愛・連帯感（豊かな人間性と社会性）

① 「体育祭・園芸展」の2大行事で「連帯感」を強め、「社会性」を育てる。

② 「学校の名所」維持管理で「母校愛」を育てる。

(7) 地域連携（学校・地域・産業界の連携）

① 「地域連携リーディング校」

② 「専門」を生かした連携

(8) 教育財産・予算（質の高い教育環境）

「校舎内外のきれい化」「歴史的教育財産の維持管理」

### 3. 今年度（令和3年度）の目標と取組み（特に今年度行うべきこと）

#### 経営計画実現のための〈基本施策〉

##### ◇1「授業を磨く」

お互いに授業を見合う中で授業 PDCA を高める。定時制では人的リソースが限られるため、他校での授業実践や研究会等へ積極的に参加し研さんする。

##### ◇2「地域と連携」：社会に開かれた教育課程の実践(地域連携リーディング校)

定時制教育を通してよりよい社会を創る理念を実現させるため、社会との連携及び協働によりその実現を図る。成果検証のPDCAを行う。

##### ◇3「次の10年への価値創造」：「地域と世界に羽ばたく園芸高校」

###### ー グローカル・アグリハイスクール ー

本校が持つ国際性（グローバル）・地域性（ローカル）・園芸教育（アグリ・ハイスクール）を複合し「グローバル・アグリハイスクール」として一層飛躍する。

#### 人間性・社会性を育成するための〈生徒指導〉

##### 1「挨拶ファースト運動」

挨拶の意味を理解し、自然と挨拶ができるように取り組む。

##### 2「3つのリスペクト運動」生徒に敬意・尊敬・畏敬の念を育てる

- ① 人をリスペクトする（人に敬意を払う）
- ② 人にリスペクトされる（人に尊敬されるよう自身を律する）
- ③ 自然をリスペクトする（園芸の自然物に畏敬の念を払う）

#### (1) 学校経営

学校校情報を発信する：適時適切な情報発信「学校ホームページのリニューアル移行と内容の充実」「SNSを活用した発信の強化」「生徒募集活動の強化」「学校案内の内容充実」

⇒ホームページやツイッターでの情報発信に取組み、ホームページは90回、ツイッターは150回の更新を行った。

募集活動では、教職員の間で情報・方策を共有し、学校案内を新規に作成し、全員体制で23区内の適応指導教室を中心に訪問し本校の特長等を説明した。ホームページリニューアルしよりわかりやすい情報を発信した。

#### (2) 学習指導（基盤学力）

##### ①全教員が「授業を磨く」、「教員相互の授業参観の実施」「外部での授業を参観し自己の授業PDCAに生かす」

相互の授業参観を学期に1回以上、外部での模範授業や公開授業を年1回以上参観する。

②学習成果の客観的評価をもとに、全教職員が出席してコア課題を設定し、定時制全体で生徒の学習課題の解決に取り組み、学力を伸長させる。（3年計画の2年目）

④生徒の学習に対する内発的動機を高めるために、「できた」「わかった」の授業場面を大切にする。小さな集団で「アウトプット」の機会を増やす。

⇒「マナトレ」による基礎学力の理解、定着の取り組みを行った。0時間目の実施により、学び直しで

基礎計算力などの向上に取り組んだ。

④毎单元ごとに思考場面を設定し、「考え抜く」授業を実践する。

⑤STEAM教育の推進 各教科での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科横断的学習を展開する。そのための探究型学習、プロジェクト学習、課題解決学習などの学習活動の充実を図り、生徒の「答えのない課題」と向き合う力を身に付けさせる。

(3) 専門教育（進路に生かせる技能、社会のニーズに応える人材育成）

① 検定 「**日本農業技術検定（3級）**」に挑戦させ、合格率85%以上を目指す。

② 資格 「造園技能士3級、フラワー装飾技能士検定3級」を選択して取得させる  
各学年において毎年、一人一つ以上の検定合格、資格取得を目指す。

⇒資格や検定取得を奨励し、以下の検定等に合格した。定時制生徒の在籍数や受験者数に対する合格率は高い成果をあげることができた。

○国家資格 造園技能士2級 1名合格、造園技能士3級 3名合格（合格率100%）

国家資格 フラワー装飾技能士3級 1名合格（合格率100%）、P検4級 1名、準2級 1合格

FFJ検定中級 3名、初級 4名合格、日本農業技術検定3級6名合格（合格率100%）、漢字能力検定準2級1名、3級2名合格、英語検定 2級1名合格

③ 生産工程管理（GAP）の概念を理解し、実習場面で「GAPする」を実践する。

第3者機関であるJGAP認証を契機として安全・安心な農業を実現する。

⇒定時制のJGAP指導員は2名となり、継続審査の結果JGAP認定を受けた。令和3度より全日制と連携して「GAPする」を開始し、GAPの理念に基づいた全定の農場管理の一元管理ができています。定時制では月に1回「GAPの日」を設定し、教員相互の点検、生徒によるSDGsの振り返りとともに実施した。今後もGAPに基づく安全・安心な農業教育の展開をさらに充実させていく。

④ 経営感覚を有した生徒の育成のために、生徒が栽培した生產品等の販売実習の場面において実践的な経営学習となるように事前・事後指導を充実させる。

⑤ 学校農業クラブ活動の活性化、プロジェクト活動の開始

⇒可能な限り参加して取り組んだ。

⑥ アグリマイスター顕彰制度認定者1名以上。⇒アグリマイスター顕彰シルバー2名認定

⑦「農業教育と環境教育の両立」ESD（Education for Sustainable Development）=持続可能な開発のための教育、SDGs（Sustainable Development Goals）=持続可能な開発のための教育、の趣旨を生かした農業と環境の両立を図り、持続可能な社会づくりの担い手を育て教育を推進する。ホームルーム等を活用したSDGsの実践を積み重ねる。

⇒年度当初にホームルーム活動としてSDGsの目標を掲げ取り組んだ。年度末には振り返りを実施した。

令和4年度はSDGsとGAPの取り組みを融合させたが、生徒が積極的に取り組んだ。

(4) 生活指導（規範意識を高める）

① 「お掃除ファースト」（使用教室の清掃、ごみの持ち帰りでごみ処理量を削減）

⇒教室へのゴミ箱設置を今年度も行わず、SDGsの観点から持ち帰り指導を実施した。

② 「時間管理」（授業遅刻 **5%以内**）

③ ⇒一日あたりのクラス平均遅刻者数は1.2人（昨年度1.2人）と変わらなかった。遅刻者は特定されている傾向があり、1年間の中での変化としては、2学期の遅刻指導対象者は増加し、3学期には改善した。継続した指導と時間管理の重要性を理解させていく。

④ 「問題行動ゼロ」（問題行動 **3件以内**）

⇒問題行動は0件（昨年度0件）であった。生徒の学校満足度は95%で昨年度の65%から高まった。

新型コロナウイルス感染症による活動の制限が緩和され、多くの行事及び学習活動を実施できたことが

影響したと考えられる。

中途転退学者は6名（昨年度0名）であった。「SOSの出し方」指導を始め、始業式・終業式時の講話を実施し、ルールやマナーについて考える機会を設けた。専門医派遣事業をはじめ、外部講師による講話等を実施し、生徒の健全育成に努めた。

(5) キャリア教育・進路指導（社会の変化に対応できる力を高める）

① 「キャリア教育マップ」の活用し、早期からの進路意識の高揚を図る。

⇒さくらんぼ教室連携事業「ソーシャル・スキル・トレーニング」については、本年度から推進事業対象ではなくなったが、重要性を鑑み自律経営予算を利用して実施方法を工夫し、年1回実施することとした。せたがやサポートステーション連携事業「自己特性理解の面談・指導」を実施した。ハローワーク就職ガイダンスを実施した。

キャリアパスポートの様式を改訂して活用した。

② 「教員による企業訪問・開拓」

企業や社会が求める人材像を的確に把握し、日常の指導に生かす。

⇒求人を開拓するより、多くの求人情数がある中で、就職を希望する各生徒にどう職業適性や企業研究を行うかに重点を置いて取り組んだ。ハローワークやサポートステーション等外部機関との連携を図り、就職支援を行った。

③ 「アルバイトの推奨」（社会参加のトレーニングとして 経験者率 **80%**以上）

⇒アルバイト経験率は75%であった。

④ 「就職希望」に対応する。（進路決定率 **100%**、第1志望実現率 **70%**以上）

⇒進路決定率100%、第1志望実現率86%を達成した。

(6) 地域・社会貢献（社会に開かれた教育課程の先進モデル）

地域活動における生徒の変容を大切にする。生徒自身が地域における活動において、外部からの評価を得ることで、次の学習行動につながるように指導する。

近隣の公共施設（新宿都庁前通り、玉川消防署、玉川警察署等）での花壇植栽活動を行う。

⇒地域社会や産業界等と連携し、開かれた教育課程の推進を図るとともに、生徒に還元できる取り組みを推進した。

地域との連携事業では、近隣住民への花鉢の配布、地域の古布回収でのボランティア活動、生徒が栽培した草花を玉川警察署や玉川消防署へ持参し、定期的に管理するなどの活動を行い、生徒は自己肯定感や自己有用感を高められた。

外部からの客観的な高評価を受けることで、次の学習行動、モチベーション向上につながられた。ハローワークやサポートステーション、さくらんぼ教室との定期的な連携・協議を実施した。東京農業大学との高大連携についても計画通り実施することができた。

⇒定時制農業科として協力体制を築き、お互いに協働しあう中で研さんを深め指導力向上に努めた。校内での花壇造成や作品の制作・展示、新宿・都庁前通りの花壇植栽、さらには本館2階廊下への成果発表などを作品研究の機会とし、教員の力量向上に寄与した。

(7) 教育財産・予算（質の高い教育環境を整える）

① 校内の名所「教育財産」を整備して価値を高める。

定時制と全日制で協力して維持・発展に努める。

⇒定時制と全日制で協力し、維持・発展に努めた。

② 予算執行を早めに行い、落差金等を学校運営に活用する。

⇒毎月の決算見込みを確実に分析し、執行残を限りなく0に近づけた。

③ 経営企画室の経営参画意識と広報・広聴機能を強化する。

④ 施設・設備の改修計画に基づき、教育環境の改善と充実を図る。

⇒安定した樹木選定の予算確保を行えた。農業科と連携して廃棄物の処理が行えた。

(8) ライフ・ワーク・バランス

- ① 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき教職員各人のライフステージに応じた働き方改革を工夫し、生徒の教育とやりがいのある教員生活の両立を図る。  
そのためにも職務上作成した完成ファイルを共有し、知（ナレッジ）を学校の財産とする。学校閉庁日の設定に当たり、保護者や学校外への理解・啓発を図る。

② 具体的な取り組み指針

- ・年次有給休暇の一層の取得促進（月1回以上の取得）
- ・マイ定時退庁日を定めるとともに、職員間で情報や成果を共有し、定時退庁の促進を図る。
- ・長期休業期間や学校閉庁日においては夏季休暇、年末年始等と合わせ、連続した取得を図る。

⇒ 今年度も企画調整会議と職員会議の一体化を図り、会議の縮減を図った。毎週の企画調整会議で経営方針の周知や分掌・学年間の情報共有化を図った。また、二人担任制をとることにより、担任業務を分担し、休暇等にも柔軟に対応できる体制ができている。

定時制職員で在校時間が規定時間を超える職員はいなかった。

学校閉庁日を利用し、年次有給休暇の取得の促進など、メリハリのある仕事ができるように全校で取り組んだ。

年間を通じて時間管理を徹底し、時間外勤務の縮減を図ることができた。



「東京都立園芸高等学校は持続可能な開発目標（SDGs）を行動基盤として社会貢献・地域貢献できる人材の育成を目指しています。」